

都市再生整備計画 事後評価シート  
秦野駅北口周辺地区(第2期)

令和2年4月

神奈川県秦野市

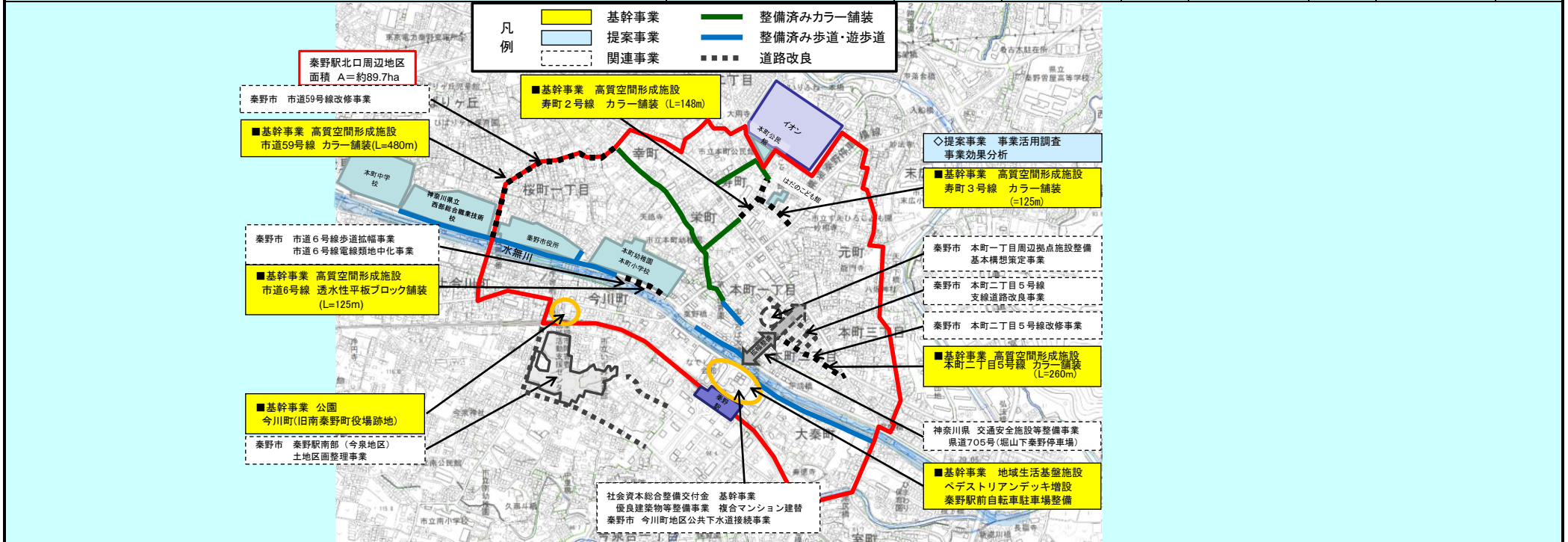
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	秦野市		地区名	秦野駅北口周辺地区(第2期)			面積	89.7ha		
交付期間	平成27年度～令和元年度		事後評価実施時期	令和元年度～2年度		交付対象事業費	1,138百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(今川町)、地域生活基盤施設(ペDESTリアンデッキ増設、自転車駐車場整備)、高質空間形成施設(市道6号線、市道59号線、市道本町二丁目5号線、寿町2号線、寿町3号線)										
		提案事業	事業活用調査(事業効果分析)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園(寿町)		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業			事業対象地を含めた周辺土地利用について、再検討をすることになったため				緑視率の計測箇所から外す				
	新たに追加した事業	基幹事業	上りエスカレーター整備		ペDESTリアンデッキと接続する複合建築物内にエスカレーターが整備されなくなったため				なし				
提案事業													
交付期間の変更	当初	平成27年度～令和元年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし							
	変更	なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	緑のオープンスペースの充実	%	1.7	H26	13.4	R1		13.4	○	あり なし	自転車駐車場の建替え工事に伴い、壁面を緑化し、駅前の緑視率の向上に貢献した。	
	指標2	秦野駅北口の駅舎西側を通行する歩行者数	人	1,880	H26	2,700	R1		7,061	○	あり なし	ペDESTリアンデッキ増設、上りエスカレーター設置により、利便性が向上し、駅舎西側の歩行者数が増えた。	
	指標3	秦野駅北口自転車駐車場の利用数	人	840	H26	1,000	R1		1,000	○	あり なし	自転車駐車場建替えにより1,000人の利用が可能となった。	
	指標4										あり なし		
指標5										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	秦野駅北口自転車駐車場の空き待ち人数	人	71	H26		0					建替えに伴い、北口駐車場の収容台数が増えたことから、需要が満たされた	
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	計画区域内を拠点とする、まちづくりに関するNPO法人が発足し、にぎわいづくりに向けた機運が向上した。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	ペDESTリアンデッキ増設工事及び公園整備に関する地元説明会を実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●					
持続的なまちづくり体制の構築	まちづくりに関するNPO法人が設立		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● NPO法人の活動支援						

## 様式2-2 地区の概要

秦野駅北口周辺地区(第2期)(神奈川県秦野市) 都市再生整備計画事業の成果概要

「水無川風の道構想」の推進 ・「水無川風の道構想」の柱となる「良好な交通環境の創出」の実現に向け、秦野駅へのアクセス性を高めた機能性の高い交通環境の整備を進める。 ・「水無川風の道構想」の柱となる「自然環境とのふれあい」の実現に向け、秦野駅北口周辺地区における潤いのある生活環境の整備と市民生活の利便性の向上を図る。	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値		
	緑のオープンスペースの充実	単位: %	1.7	H26	13.4	R1	13.4
秦野駅北口の駅舎西側を通行する歩行者数	単位: 人	1,880	H26	2,700	R1	7,061	R1
秦野駅北口自転車駐車場の利用数	単位: 人	840	H26	1,000	R1	1,000	R1
	単位:		H		H		H
	単位:		H		H		H



**まちの課題の変化**

- ・歩道の幅やカラー舗装の整備によって歩行空間の安全性の向上が見られた。
- ・ペDESTリアンデッキの増設、エスカレーター設置により、新たに駅への経路が出来たことで、歩行者動線を分散化した。
- ・自転車駐車場整備により駅周辺の駐輪場の集約が図られたうえ、接続したペDESTリアンデッキ設置により、歩行者と自転車の動線の分散がみられた。
- ・いまがわちょう南公園整備により、あずまや等が設置され休憩スペースとして活用されている。
- ・ポレスター秦野駅前の整備により駅連絡所、郵便局、保育所等が入り都市機能の集約が図られた。また、ペDESTリアンデッキが接続したことで利便性が向上した。

**今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)**

- ・今後も良好な歩行空間確保に向けた取り組みを進め、駅から歩いて行ける地域の活性化を図る。
- ・ソフト施策(空き店舗対策支援、情報発信、イベントの開催)により、駅周辺の店舗を誘致する。
- ・ペDESTリアンデッキ増設により、回遊性が向上した一方で、新設したエスカレーターに通行量が集中している。駅周辺のマンション開発も検討されており、駅利用者の増加が見込まれるため、駅前広場の動線については引き続き検討の必要がある。
- ・駅前広場周辺道路では、歩行者と自転車が混在しているため、自転車走行空間の整備や自転車利用者のマナー向上を推進する必要がある。
- ・自転車駐車場を整備したことで放置自転車の減少が期待できるが、啓発活動も重要であることから、定期的な啓発を継続する。
- ・土日に、電車で訪れたサイクリストに開放している駐輪場の一部のスペースについて、サイクリストの拠点となるよう利用促進に努める。(情報発信)
- ・オープンスペース活用のため住民参加の取り組みを検討(公園の植栽などの維持管理)
- ・にぎわい創出の施策の検討、商店街の活性化や近隣住民の交流を推進する。(まちづくりに関するNPO法人の活動支援、イベント開催支援)